

# 臼杵川水系河川整備計画



国宝 臼杵石仏 「大日如来」

平成14年 6月

大 分 県

# 目 次

第1章 白杵川水系の概要	1
第2章 流域の現状と課題	3
第1節 治水の現状と課題	3
1. 流下能力不足	3
2. 内水氾濫	4
3. 大規模な洪水の恐れ	4
第2節 利水の現状と課題	5
1. 河川水の利用	5
第3節 河川環境及び河川の利用の現状と課題	5
1. 河川環境	5
2. 水 質	8
3. 河川空間の利用	8
第3章 河川整備計画の目標	9
第1節 「豊の国の川づくり」の基本理念	9
第2節 河川整備計画の目標	10
1. 河川整備計画の対象区間	10
2. 河川整備計画の対象期間	12
3. 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	12
4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	12
5. 河川環境の整備と保全に関する目標	13
第4章 河川整備の実施内容	14
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要	14
1. 白杵川	16
2. 温井川	18
3. 小河内川	20
4. 田井ヶ迫川	22
5. 左津留川	24
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	26

1. 河川管理施設の維持管理・災害復旧	26
2. 河川空間及び流域の適正な利用調節・管理	26
3. 河川情報の高度化及び提供	26
4. 防災意識の情報	27
5. 水質の監視等	27
第3節 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項	28
1. 地域ぐるみの河川管理	28
2. 河川情報の共有化	28
第5章 白杵川の川づくりの進め方	29

## 第1章 臼杵川水系の概要

臼杵川水系は、その源を基盤ヶ岳に発して北流し、大工川、勘場川を合流した後、北東に向きを変え中臼杵川、左津留川等を合わせ、臼杵市街中心部の河川を合流し臼杵湾に注ぐ、流域面積 90.7 km<sup>2</sup>、幹川流路延長 18.2 km の二級河川です。

臼杵川流域の関係市町村は、臼杵市・大分市・野津町の2市1町ですが、その殆どは臼杵市に属しています。流域内の土地利用は、その大半を林野と耕地が占めており、流域全体に占める山地の割合は平成9年時点で約96%となっています。また、流域内人口は約1万5千人です。

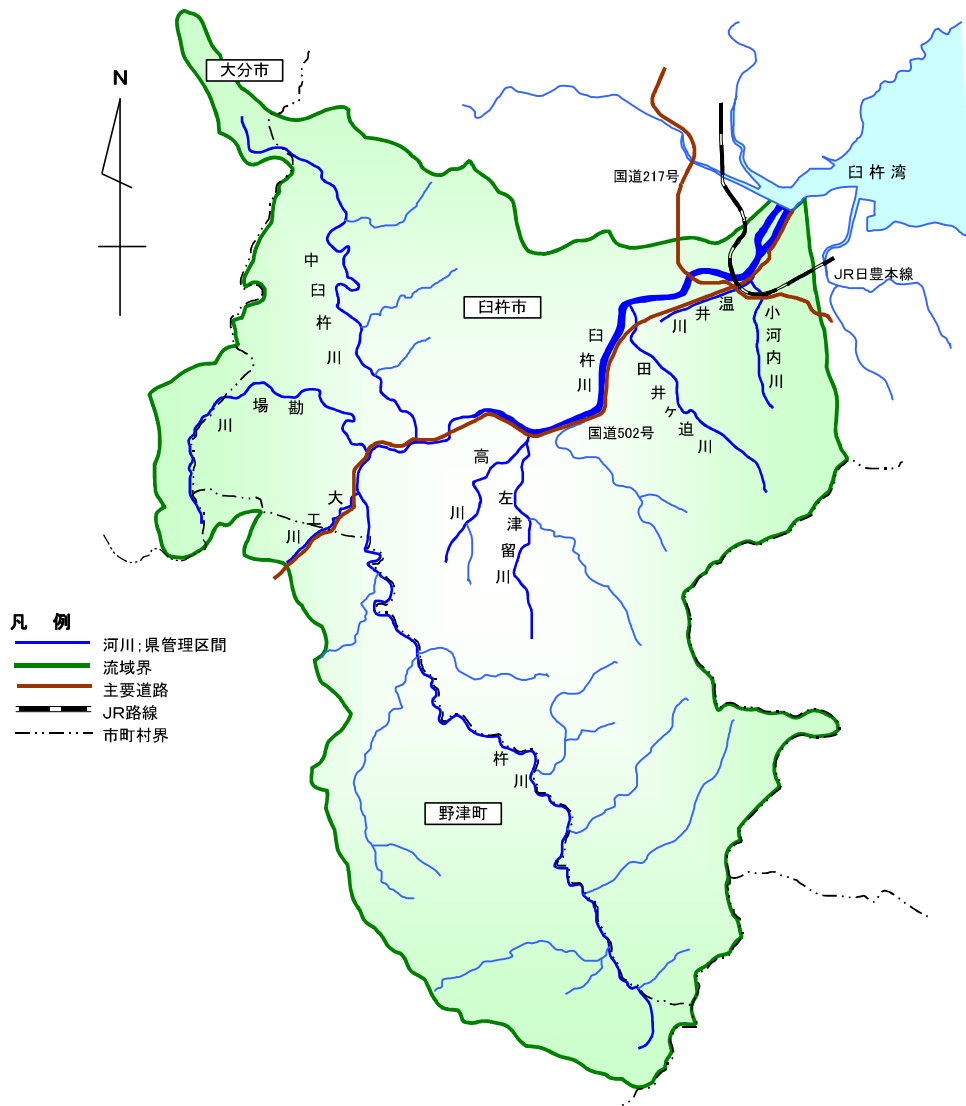


図1 臼杵川流域概要図

地形は、上中流部の深山の中を臼杵川が流れ、溪谷となっています。市街地である下流部においては、狭小な平野を形成し、臼杵湾に注ぐところで三角州となっています。

地質は、日本列島第1級の断層である中央構造線の九州における入り口に当たるとともに、九州最古の岩石（津久見島古生層）が分布し、日本列島の地質構造上極めて重要な位置を占めています。臼杵川をはじめとする各河川沿いには、新生代第四期の岩石、地層が分布し、阿蘇溶結凝灰岩は石材資源として利用されています。

気候は、東部を豊後水道に面し、北上する黒潮（日本海流）の影響を受け、南海型気候の傾向が強いものの瀬戸内海型気候の影響が残り、気候は穏やかです。冬は温暖で夏の台風期に降雨が集中する特徴を持っています。年平均降雨量は1,600 mm程度、年平均気温は約16.8℃です。

流域は、大友氏の城下町として栄えた町並みを今でも残し、平安、鎌倉時代から数多くの文化財が現存しています。その中でも臼杵市深田にある国宝「臼杵石仏」は、平安時代後期から鎌倉時代初期にかけての磨崖物60体が現存し、美術史上からも関心の高いものとなっています。

土地利用としては、臼杵川の沿川に拓けた平野部において、商工業、住宅地としてその高度利用が図られています。また、大分県南地方拠点都市地域の指定や東九州自動車道の建設など大規模な開発が進められ、今後も更なる発展が予想されます。



写真1 国宝 臼杵石仏「大日如来」

## 第2章 流域の現状と課題

### 第1節 治水の現状と課題

流域の治水事業は、本川中下流区間で昭和26年から平成5年にかけて、河口から家野橋までの区間を計画高水流量  $750 \text{ m}^3/\text{s}$  を目標に、河川改修事業が行われています。また、各支川においても局部改良により、護岸整備等の河川改修事業が行われてきました。しかし、平成5年9月、平成9年9月、平成10年10月と短期間に3度の大水による被害を受けたのはじめ、平成3年から平成12年までの10年間に26回の被害が発生しており、以下の課題への対策が必要になっています。

#### 1. 流下能力不足

平成5年9月出水では、白杵川、温井川、小河内川、田井ヶ迫川、左津留川において、河道の流下能力不足による河川氾濫により、浸水被害が発生しました。この被害状況としては、浸水面積144 ha 浸水家屋492戸（床上117戸、床下375戸）となっています。

このため、洪水を安全に流下させ、家屋の浸水被害を軽減する対策が必要となっています。



写真2 平成9年9月出水の被災状況  
(白杵川 5K/100)



写真3 平成9年9月出水の被災状況  
(白杵川 5K/100 右岸)

## 2. 内水氾濫

白杵川の下流部低平地を流れる温井川、その温井川に合流する小河内川では、洪水時における白杵川の水位上昇の影響や背後地における市街化の進展により、内水被害が深刻化しています。

これらの浸水被害を軽減するため、白杵川においては河床掘削、温井川においては調整池の建設、小河内川においては温井川との合流点処理が必要となっています。なお、これらの地区については浸水地区の公表、水位等の河川情報発信などのソフト対策も課題となっています。



写真4 平成9年9月出水の浸水状況  
（土橋アンダー）



写真5 平成9年9月出水の浸水状況  
（国道502号）

## 3. 大規模な洪水の恐れ

近年、計画規模を上回る洪水による災害が全国各地で発生していますが、白杵川下流は市街地であり人口・資産が集中していることから、このような洪水が発生した場合、大規模な被害が予想されます。

よって、被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携を図りながら、水防活動及び警戒・避難体制の充実を図る必要があります。

## 第2節 利水の現状と課題

### 1. 河川水の利用

河川水の利用としては、臼杵川で堰より取水され農業用水等に利用されているほか、地下水は、水道用水や臼杵川河口の味噌、醤油および酒造業の工場等で利用されています。

各支川の水利用としては、田井ヶ迫川・左津留川において農業用水として利用されています。また、市街地を流れる温井川・小河内川においても上流域で農業用水として利用されています。

臼杵川流域では、近年、水不足による農作物の大きな被害は発生していませんが、今後、近年の全国的な少雨化現象による流量減や、社会情勢の変化によっては水不足が懸念されます。



写真6 農業用水を取水している野田堰  
(平成12年4月撮影)

## 第3節 河川環境及び河川利用の現状と課題

### 1. 河川環境

臼杵川流域においては、近年の宅地開発・都市化に伴う浸透面積の減少により、従来の水循環機能に変化し、河川流量の減少が予想されます。また、市街地の生活排水の流入により、水質の悪化が懸念されます。その結果、水辺利用や環境面から見て好ましくない状況になりつつあります。

なお、流域内の河川環境の現状は、次のとおりです。

臼杵川の上・中流域は、広葉樹や針葉樹に囲まれ、カゲロウ目、トビゲラ目、ゲンジボタル等の清流に棲む底生動物が生息するなど、多くの自然が現存しています。

下流域では、一部区間においてコンクリートブロック等で覆われているものの、河原にはヤナギタデ・ツルヨシ群落が見られるほか、馬代堰、野田堰の湛水区間では、砂地にヒメガマ群落等の豊かな水辺の植生が見られます。魚類においては、早瀬、淵、浅い部分など多様な河川形状のため、生息環境の異なる魚が多く生息しています。また、沿川に点在する竹林



地帯の一部は「魚付保安林」（大分県所管）として保護されているなど、シラサギ・カモ等、鳥類の生息地となっています。その他、臼杵川の左岸側には景勝地の白馬溪<sup>はくばけい</sup>があり、風光明媚な景観を形成しています。河口においては、臼杵川独特の景観とも言える中州島を形成しています。



写真7 臼杵川の河川景観（平成12年4月撮影）



写真8 白馬溪



写真9 空から見た臼杵川



写真10 空から見た臼杵川

流域下流部に位置する支川の田井ヶ迫川、左津留川において、下流部はコンクリートブロック等で覆われていますが、上流部では沿川に家屋が比較的少なく、河原にはヨシ類が繁茂し、水辺にはオイカワ（ハエ）等の魚類がみられます。また、沿川平野部のほとんどは耕地となっています。



写真 11 田井ヶ迫川の河川景観  
(平成 12 年 4 月撮影)



写真 12 左津留川の河川景観  
(平成 13 年 7 月撮影)

一方、河口近くの市街地を流れる温井川、小河内川は、沿川に家屋が連なり、家庭の雑排水の流入が見うけられます。また、平常時の流量も少ないため、動植物の生息は少ないようです。近年において、下水道（汚水）整備がかなり進んできていますが、未だ十分な状態とはいえません。



写真 13 温井川の河川景観  
(平成 12 年 4 月撮影)

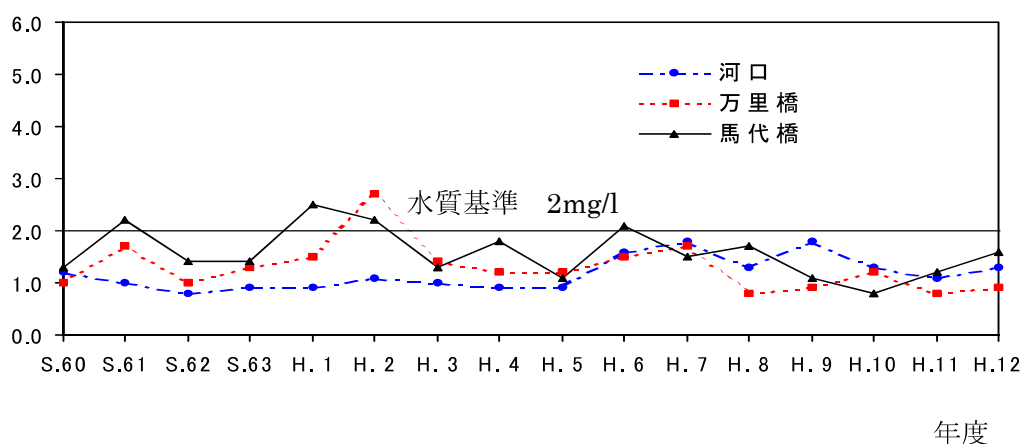


写真 14 小河内川の河川景観  
(平成 13 年 7 月撮影)

## 2. 水質

水質については全域A類型（環境基準値：BOD<sub>2</sub> mg/λ 以下）に指定されており、臼杵川河口、万里橋、馬代橋で調査を行っています。過去16年のBOD<sub>75%</sub>値は、万里橋、馬代橋で環境基準値を超えている年があるものの、平成7年度以降は0.8～1.8 mg/λ程度と環境基準値を満足しています。しかし、今後も良好な水質を維持していくため、自治体をはじめ流域全体で、生活雑排水対策等に取り組んで行く必要があります。

BOD<sub>75%</sub>値(mg/l)



臼杵川の各地点における水質（BOD<sub>75%</sub>値）の経年変化

## 3. 河川空間の利用

河川空間の利用については、臼杵川本川は魚釣りや休息地などの憩いの場となっている他、堤防天端は散策道となっており、沿川住民の貴重なオープンスペースとして利用されています。また、臼杵川ハエ釣り大会などの観光イベントが開かれるなど、多くの人々に利用されています。なお、臼杵川においては第5種共同（内水面）漁業権が設定されており、臼杵河川漁業協同組合によって魚の増殖・放流が実施されています。

このように多くの人々に河川空間は利用されていますが、近年、沿川にも市街化の波が押し寄せ、周辺住民からは都市部における貴重な水と緑のオープンスペースとしてのさらなる保全が求められています。

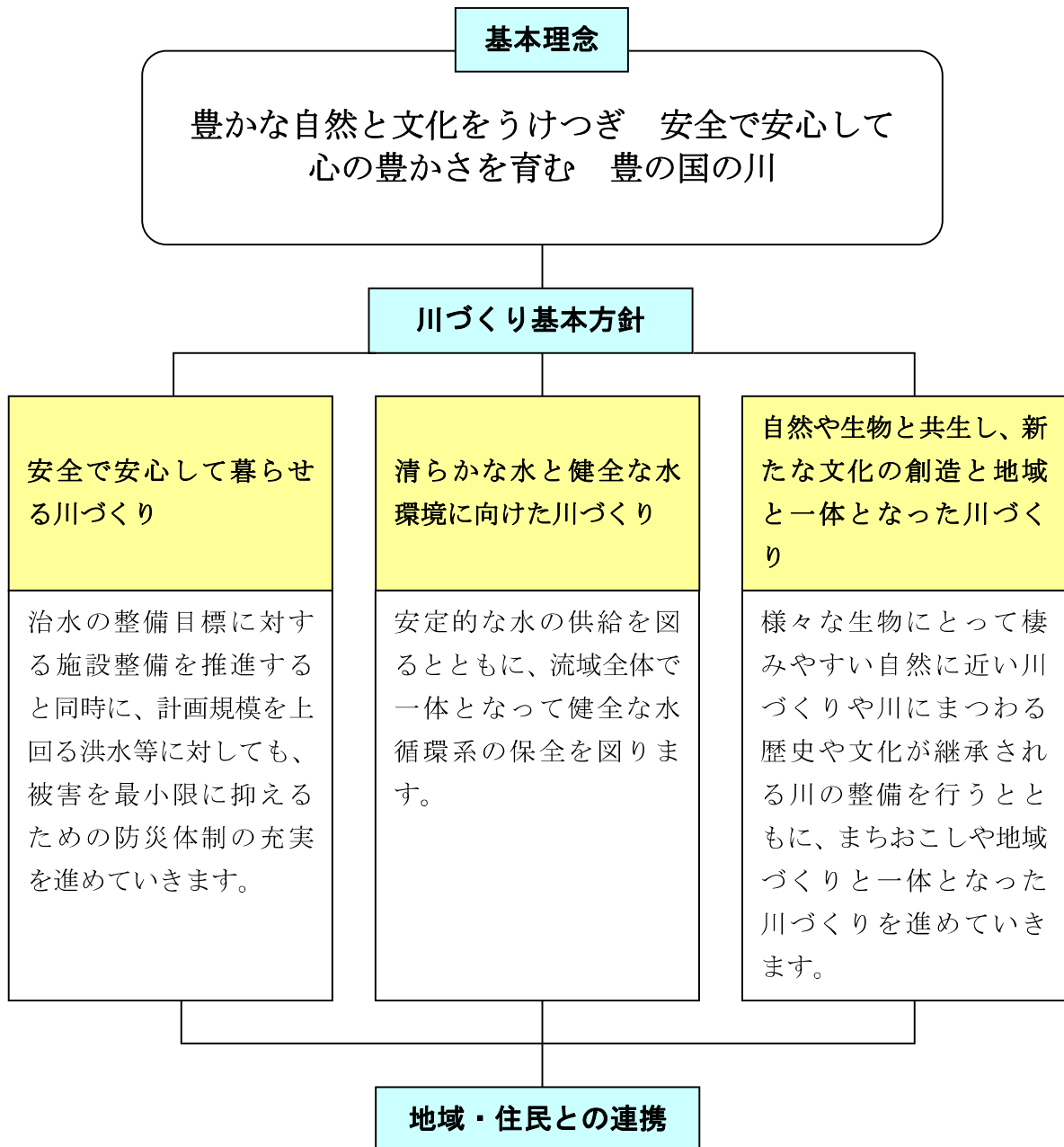


写真 15 （平成 13 年 8 月撮影）

### 第3章 河川整備計画の目標

#### 第1節 「豊の国の川づくり」の基本理念

「豊の国の川づくり」は、水系を一貫としてとらえ下記の基本理念・基本方針に基づき、地域・住民と連携を図りながら推進していきます。



## 第2節 河川整備計画の目標

### 1. 河川整備計画の対象区間

本計画の対象とする区間は、下記の表1のとおりです。

表1 計画対象区間

河川名	区 間		区間延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )
	上 流 端	下 流 端		
白 杵 川	左岸：大野郡野津町大字西神野字白岩口 右岸：白杵市大字東神野字西平	海に至る	18.2	90.7
小河内川	左岸：白杵市大字福良字河原田 2731-6 右岸：白杵市大字福良字中ヒラキ 1514-1	温井川への 合流点	1.0	2.73
温井川	左岸：白杵市大字野田字竹ノ下 370-1 右岸：白杵市大字野田字木船 341-1	白杵川への 合流点	1.0	1.46
田井ヶ迫川	左岸：白杵市大字野田字松平 1959-2 右岸：白杵市大字野田字宮田 2630-2	〃	1.6	4.50
左津留川	左岸：白杵市大字中尾字下ノ田 1535 右岸：白杵市大字中尾字前田 1517-1	〃	2.0	4.98
たかやま 高山川	左岸：白杵市大字左津留字高岩 2-1594 右岸：白杵市大字左津留字高岩 1595-2	〃	2.2	3.00
中白杵川	左岸：白杵市大字久木小野字大田 820 右岸：白杵市大字久木小野字甚三郎 741	〃	4.5	14.26
勘場川	左岸：白杵市大字武山字山ノ口 505 右岸：白杵市大字武山字平原 151-1	〃	3.3	7.23
大工川	左岸：白杵市大字武山字ビキタ 4013-7 右岸：白杵市大字武山字中陳 4094	〃	1.1	1.50

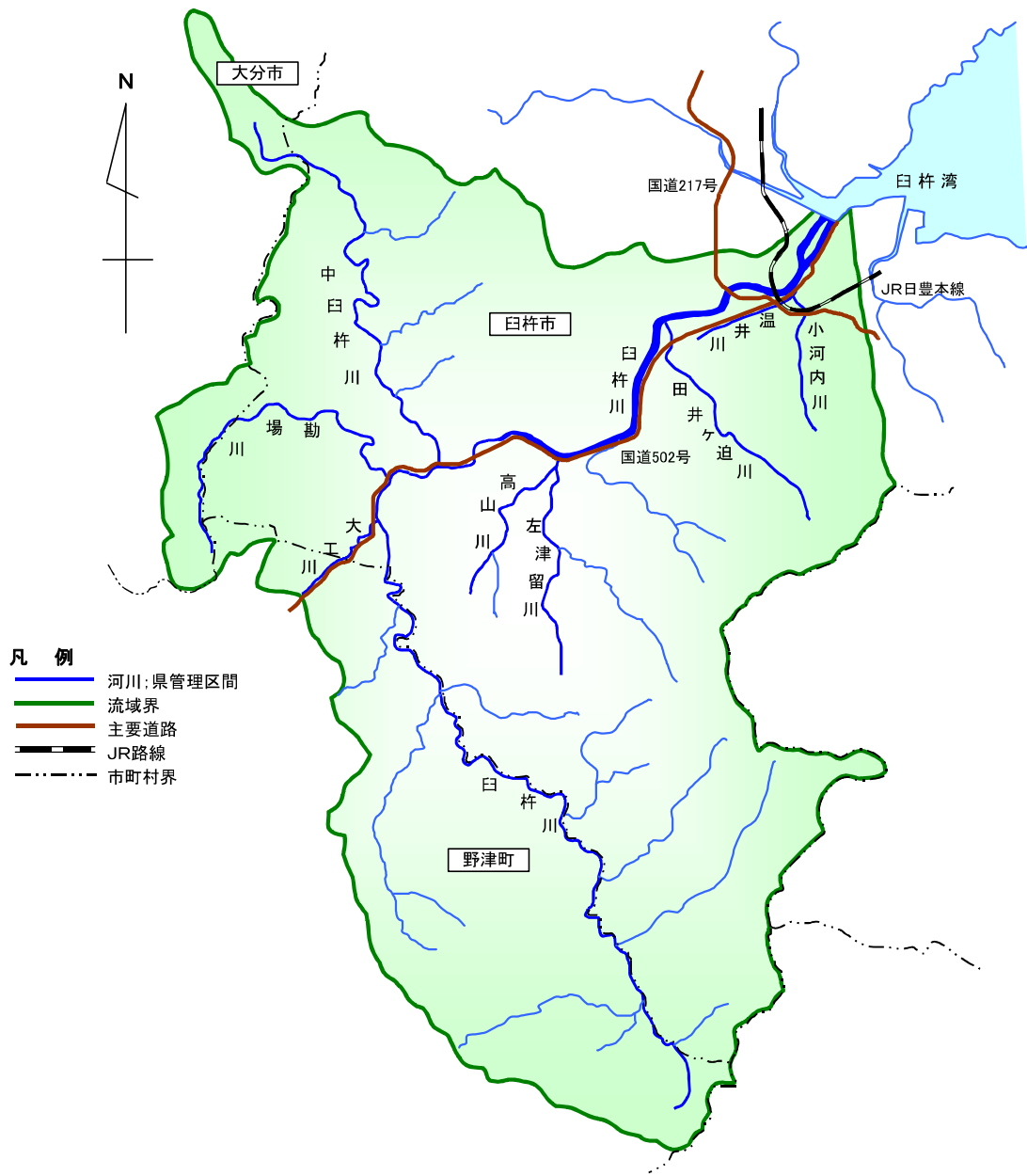


図2 計画対象河川

## 2. 河川整備計画の対象期間

本河川整備計画は、臼杵川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は概ね30年とします。

本計画は、現時点の流域の社会状況、自然状況、河道状況に基づき策定されたものであり、策定後、これらの状況の変化や新たな知見・技術の進捗等の変化により、必要に応じて見直しを行います。

## 3. 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

流域内の県管理区間において、沿川の人口・資産の状況、現況の流下能力、災害の発生状況、流域内の開発状況を踏まえ、戦後最大の洪水である平成5年9月出水と同等規模の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行い、家屋への浸水被害の防止を図るとともに、台風等による高潮にも対処します。

また、災害により被災した箇所については、河川環境に配慮しつつ速やかに復旧を行い、必要に応じて、再度災害の防止を図ります。

近年の出水で内水による被害が著しい地域、または背後地の状況変化により内水対策の必要性が高まった地域については、大分県・臼杵市等で構成する「臼杵市浸水対策協議会」に諮り、事業の調整を行ったうえで内水対策を実施し、家屋の床上浸水被害の軽減を図ります。

計画を上回るような大規模な洪水の発生に対しては、関係機関、地域住民と連携・協力し、水防体制の確立や河川情報の提供等による洪水危機管理体制の整備に努め、被害の防止・軽減を図ります。

さらに、河川管理施設の機能低下を補い点検・補修を行うとともに、所定の流下能力を確保するため、必要に応じて土砂の除去等を行います。

## 4. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

流域内における河川水の利用は、農業用水として耕地へのかんがいの一部利用されており、今後も利水者と調整し、合理的な水利用に努めます。

## 5. 河川環境の整備と保全に関する目標

近年の宅地開発や都市化等に伴う浸透面積の減少により、河川の水量の減少が予想されるため、関係機関と協力して、流域内の貯留機能の維持に努めます。

また、周辺的生活排水の流入による河川の汚濁が進みつつあるため、関係機関と協力して、水質に対する住民の意識の向上を図るための活動や水質管理体制の拡充に努めます。

河川改修に当たっては、周辺の景観や地域整備と一体となり、動植物の多様な生息・生育環境に配慮し、河川の特長や地域の個性にふさわしい川づくりを進めます。このため、洪水を安全に流下させることを基本にしつつ、河川の形状にできるだけ変化を持たせるなどの工夫による改修を行い、河川環境の整備と保全に努めます。なお、今後の維持管理においては、必要に応じて生物の追跡調査を行うなど、河川環境の保全に努めます。

都市部における河川空間は、貴重なオープンスペースであり、利用等に当たっては、地域社会からの多様なニーズに対し、沿川住民・自治体等と連携を図りながら利用と保全の調和に努めます。

さらに、河川の豊かな自然を活用したふれあいの場や体験学習の場等については、地域住民から整備の要望があった場合、現地の状況を調査の上、その内容を検討し、関係機関と連携・調整を図り、可能なものから整備に努めます。



## 第4章 河川整備の実施内容

### 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

流域の現状と課題を踏まえ、計画対象区間の中で河川整備計画の目標に照らして、河川工事を行うべき河川として、白杵川、温井川、小河内川、田井ヶ迫川、左津留川があげられます。このため、計画的に河川工事を施行する河川を白杵川、温井川、小河内川、田井ヶ迫川、左津留川とし、表2に示す区間において河川改修を行います。

表2 工事を施行する河川

河川名	河川工事区間	工事場所
白杵川	-1K/350 (白杵湾) ~7K/000 [L=8, 350m]	白杵市 大字白杵・市浜・福良・前田・ 野田・望月・家野・深田・左津 留・搔懐 <sup>かきだき</sup>
温井川	0K/000 (白杵川合流点) ~0K/930 [L=930m]	白杵市 大字福良・野田
小河内川	0K/000 (白杵川合流点) ~0K/320 [L=320m]	白杵市 大字福良
田井ヶ迫川	0K/000 (白杵川合流点) ~1K/110 [L=1, 110m]	白杵市 大字野田・望月
左津留川	0K/000 (白杵川合流点) ~1K/640 [L=1, 640m]	白杵市 大字搔懐・左津留

○洪水対策として整備の必要な河川の選定

河川名	平成5年出水		対 応 策	工事 施行 河川	備 考
	浸 水 状 況	浸水原因			
白杵川	浸水面積128ha 浸水家屋278戸 (床上35戸, 床下243戸)	流下能力 不足 内水氾濫	・河川改修	○	
小河内川	浸水面積0.5ha 浸水家屋8戸 (床上0戸, 床下8戸)	流下能力 不足 内水氾濫	・河川改修 ・合流点処理	○	
温井川	浸水面積1.75ha 浸水家屋170戸 (床上76戸, 床下94戸)	流下能力 不足 内水氾濫	・河川改修 ・調整池	○	
田井ヶ迫川	浸水面積5.9ha 浸水家屋6戸 (床上0戸, 床下6戸)	流下能力 不足	・河川改修	○	
左津留川	浸水面積1.2ha 浸水家屋19戸 (床上5戸, 床下14戸)	流下能力 不足	・河川改修	○	
高山川	なし	—	—	—	
中白杵川	浸水面積4.7ha 浸水家屋なし	流下能力 不足	—	—	
勘場川	なし	—	—	—	
大工川	なし	—	—	—	

## 1. 白杵川

白杵川は洪水の際、局部的河積不足と固定堰の影響で家屋の浸水被害が発生したほか、白杵川の水位上昇に伴い、支川において内水被害が発生しました。このため、家屋連担地区から白杵湾までの区間（図4参照）において河川改修を行い、平成5年9月出水と同等規模の洪水に対して、家屋への浸水被害を防止します。

### ○河川改修

河川改修として、著しく河積を阻害している馬代堰・野田堰の改築、河積が部分的に不足している箇所においては河道拡幅工事及び堤防の嵩上げ、護岸等の整備を行うことにより流下能力を確保して治水安全度の向上を図ります。

また、河床掘削を行い河積の確保をするとともに、水位を下げることによって支川の流下をスムーズに行います。

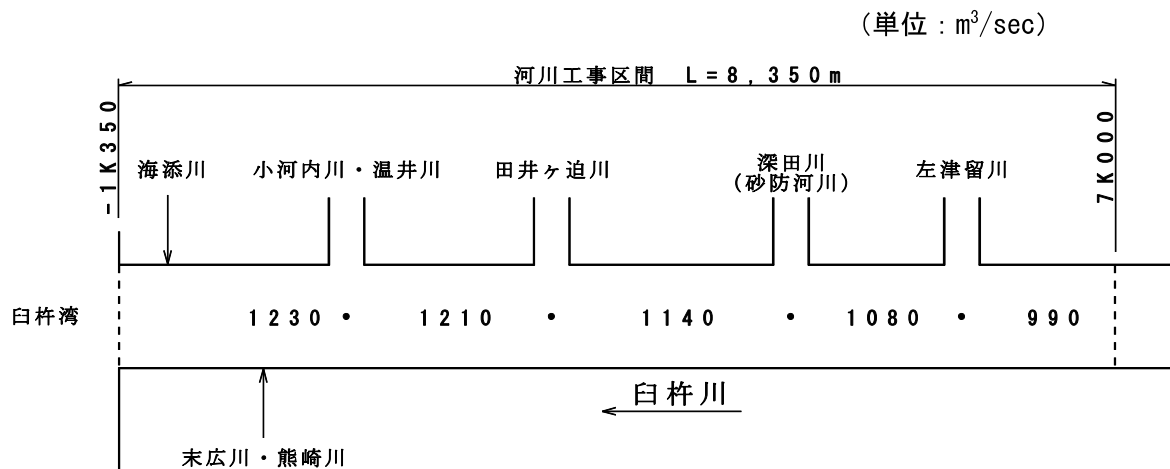


図3 河川整備目標流量



図4 河川工事の施行の場所

(白杵市大字白杵・市浜・福良・前田・野田・望月・家野・深田・左津留・<sup>かきだき</sup>搔懐)

縮尺 ; 1/500

H. W. L ; 計画高水位

荒田橋上流150m付近  
(4K/000)

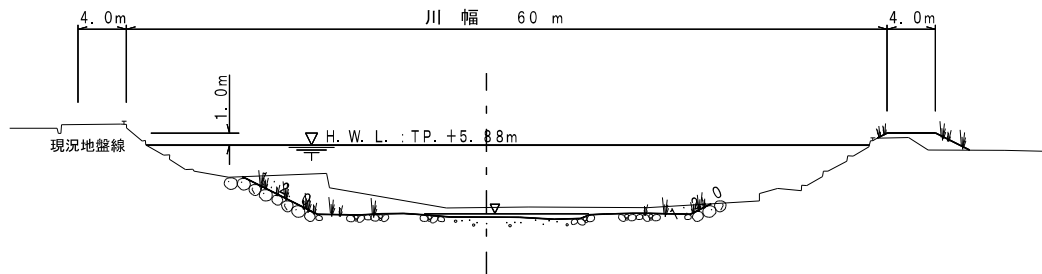


図5 代表地点の断面形

## 2. 温井川

温井川は、河積不足に加え河床勾配が著しく緩やかであるため、白杵川の洪水位の影響を強く受け、外水、内水による家屋の浸水被害が発生しました。このため、図7の区間において河川改修と調整池の新設を行い、平成5年9月出水と同等規模の洪水に対して、家屋への浸水被害を防止します。

### ○河川改修

河川改修として、掘削による河道拡幅工事や河床を下げることによりできる限り河積を拡大し、堤防の新設、護岸等の整備を行い治水安全度の向上を図ります。

また、現状では平常時の水量が少ないため、河床に低水路を設けて水深を確保します。

### ○調整池

河道断面での不足分は調整池を設け、総合的に家屋への浸水被害を防止します。

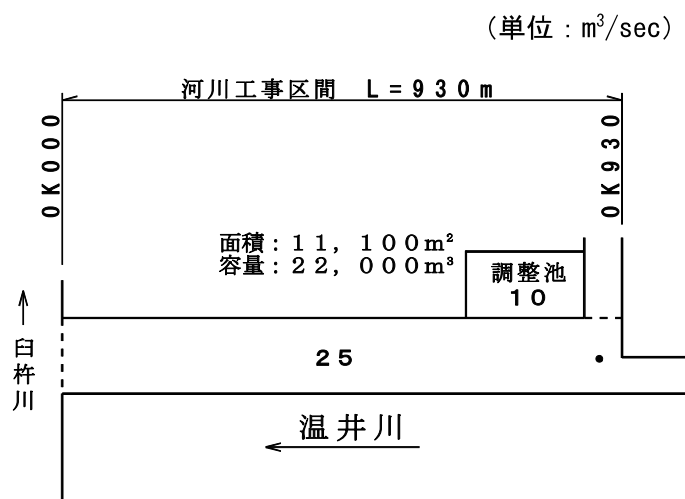


図6 河川整備目標流量



図7 河川工事の施行の場所  
(臼杵市大字福良)

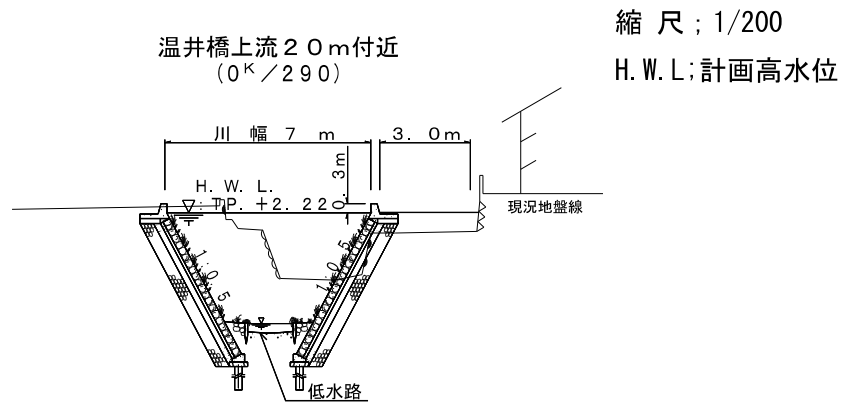


図8 温井川代表地点の断面形

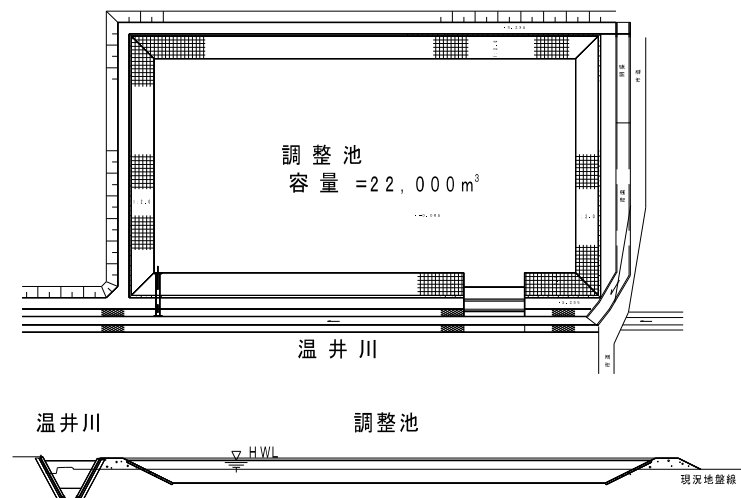


図9 温井川調整池平面図及び断面図

### 3. 小河内川

小河内川は、局部的な湾曲及び河積不足に加え、臼杵川の洪水位の影響を強く受けるため、外水、内水による家屋の浸水被害が発生しました。このため、図10の区間において河川改修及び温井川との合流点処理を行い、平成5年9月出水と同等規模の洪水に対して、家屋への浸水被害を軽減します。

#### ○河川改修

河川改修として、堤防の新設、掘削による河道拡幅工事や護岸等の整備を行うことにより流下能力を確保して治水安全度の向上を図ります。

また、現状では平常時の水量が少ないため、河床に低水路を設けて水深を確保します。

#### ○合流点処理

温井川との合流点処理として河道の付け替え（直接臼杵川に放流）を行い、洪水を臼杵川に流下させることによって、小河内・温井川の流下をスムーズに行います。

(単位 :  $\text{m}^3/\text{sec}$ )

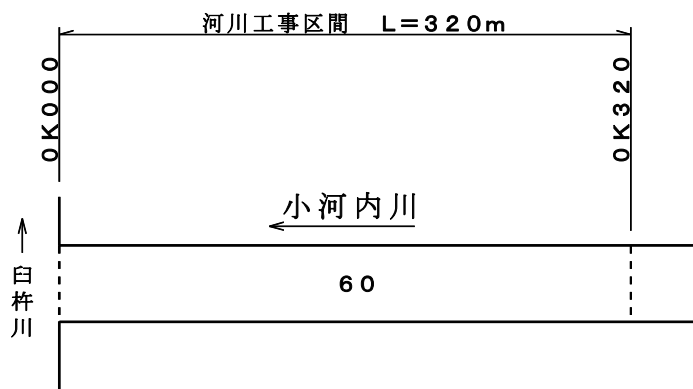


図9 河川整備目標流量

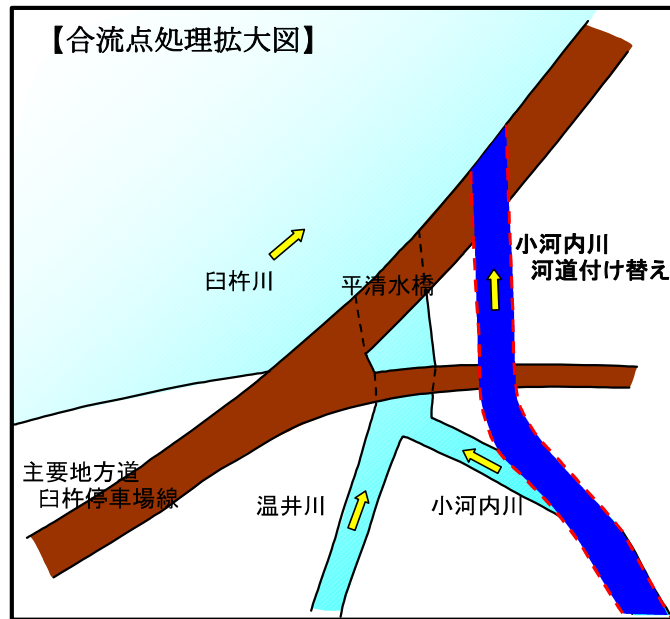
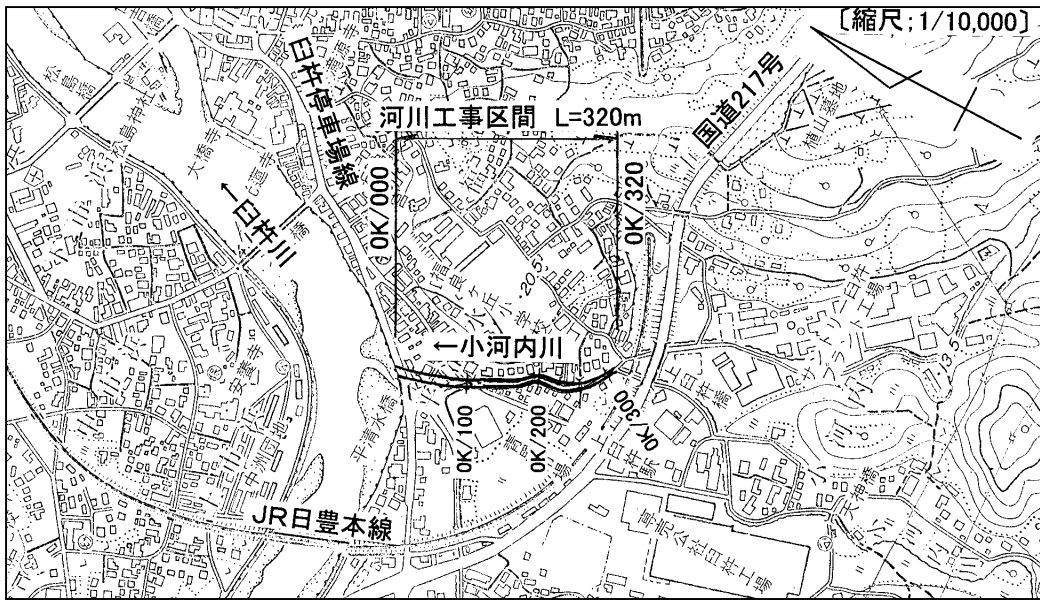


図 10 河川工事の施行の場所  
(臼杵市大字福良)

縮尺 ; 1/200

H. W. L ; 計画高水位

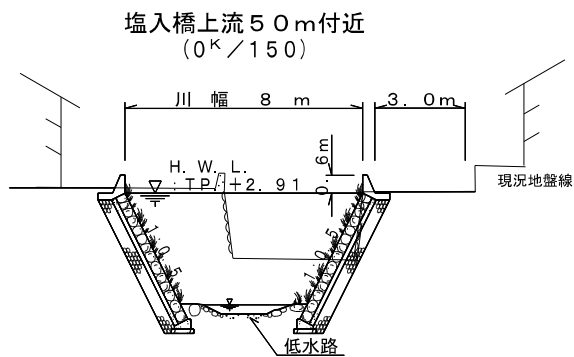


図 11 代表地点の断面形



#### 4. 田井ヶ迫川

田井ヶ迫川は、現況の河積不足のため、外水による家屋の浸水被害が発生しました。このため、図13の区間において河川改修を行い、平成5年9月出水と同等規模の洪水に対して、家屋への浸水被害を防止します。

##### ○河川改修

河川改修として、掘削による河道拡幅工事や護岸等の整備を行うことにより流下能力を確保して治水安全度の向上を図ります。

また、現状では平常時の水量が少ないため、河床に低水路を設けて水深を確保します。

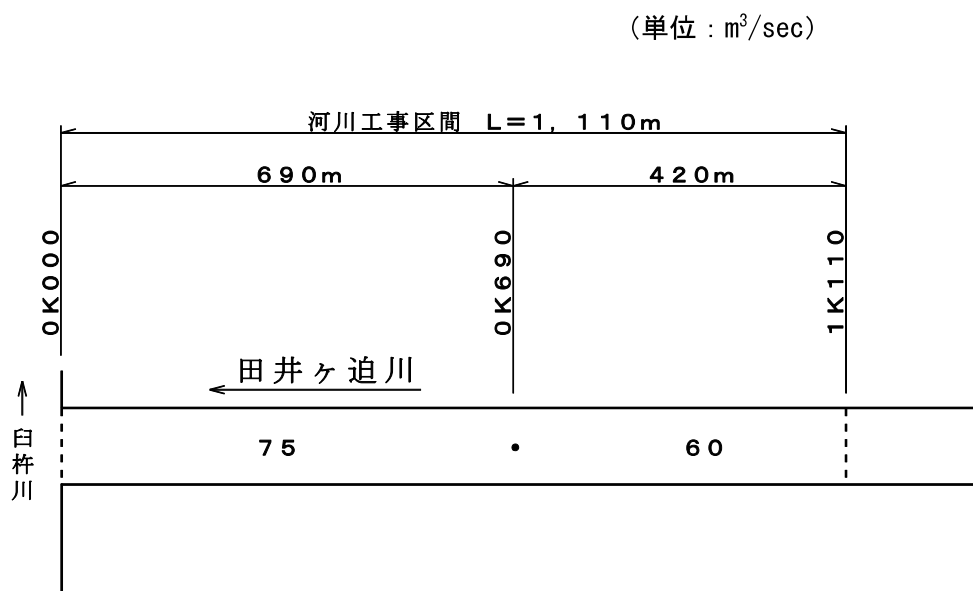


図12 河川整備目標流量

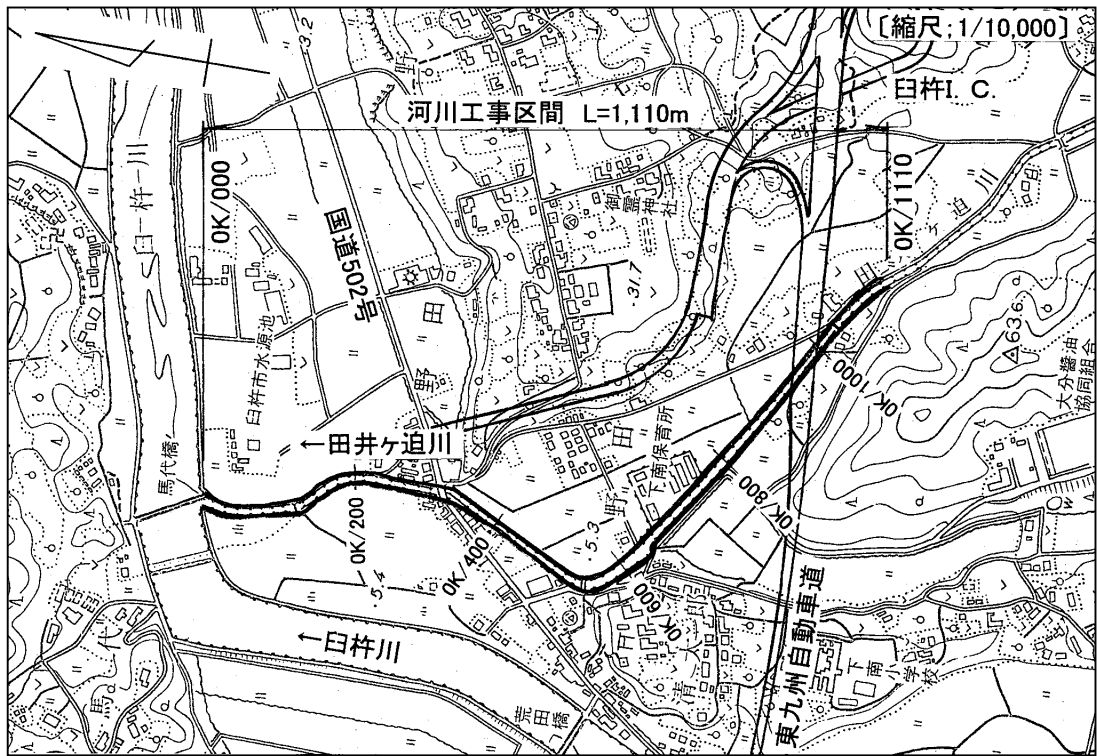


図13 河川工事の施行の場所  
(白杵市大字野田・望月)

縮尺: 1/200

H. W. L.; 計画高水位

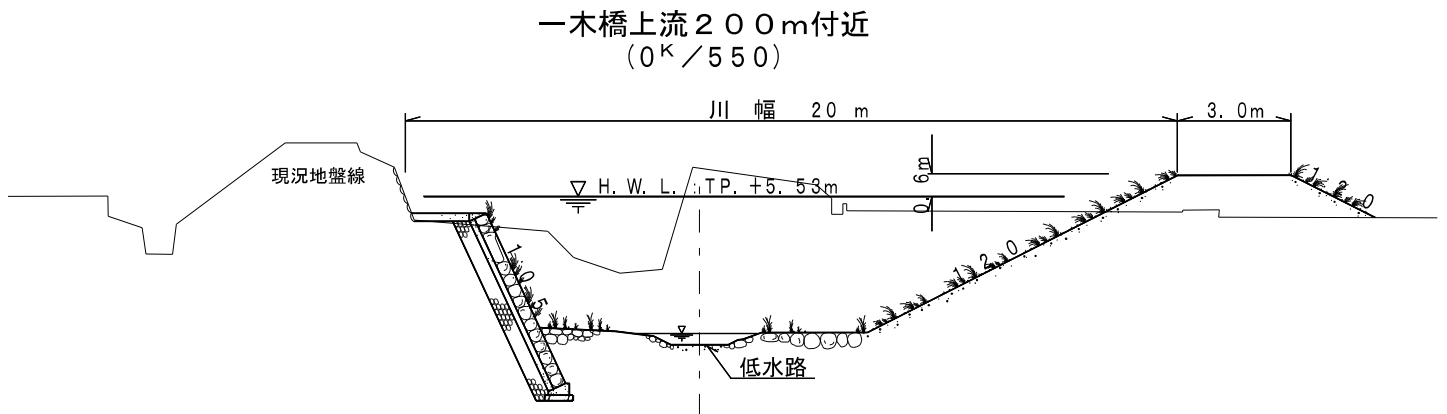


図14 代表地点の断面形

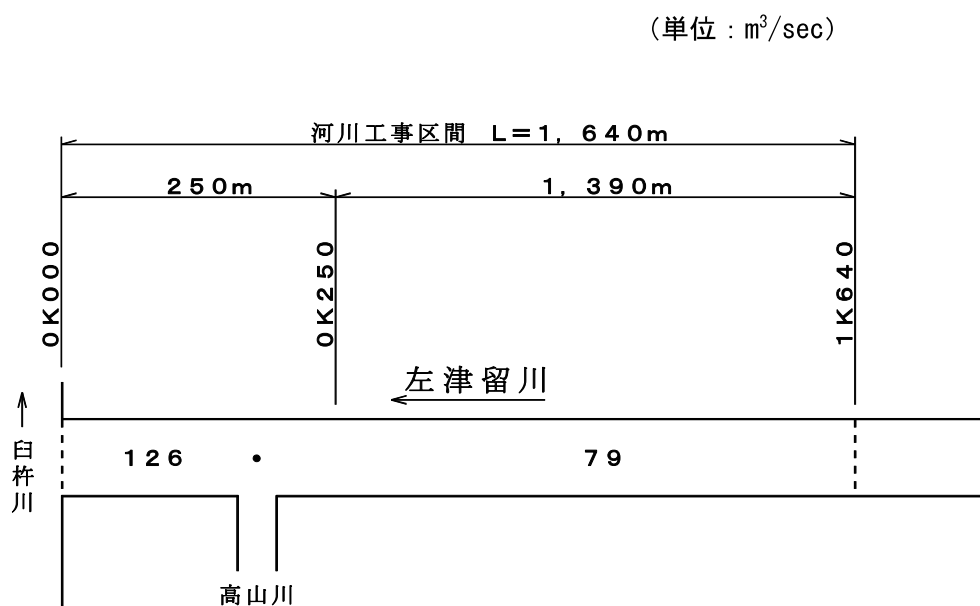
## 5. 左津留川

左津留川は、現況の河積不足のため、外水による家屋の浸水被害が発生しました。このため、図16の区間において河川改修を行い、平成5年9月出水と同等規模の洪水に対して、家屋への浸水被害を防止します。

### ○河川改修

河川改修として、掘削による河道拡幅工事や護岸等の整備を行うことにより流下能力を確保して治水安全度の向上を図ります。

現状では平常時の水量が少ないため、河床に低水路を設けて水深を確保します。また、水辺の<sup>がっこう</sup>楽校プロジェクトとして、子供たちの遊びの場、自然体験の場、自然学習の場として活用されるよう水辺に親しむ機能を有した河川改修とします。



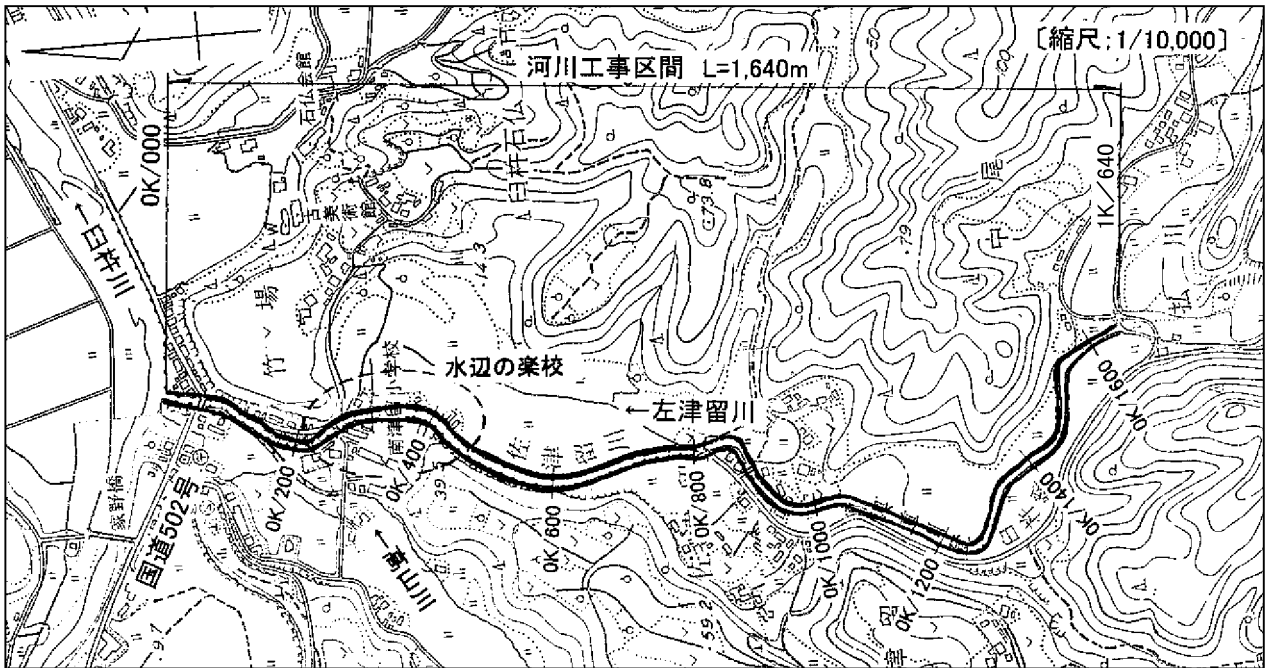


図 16 河川工事の施行の場所  
(臼杵市大字左津留・搔懐<sup>かきだき</sup>)



水辺整備基本構想イメージスケッチ

縮尺 ; 1/200  
H. W. L. : 計画高水位

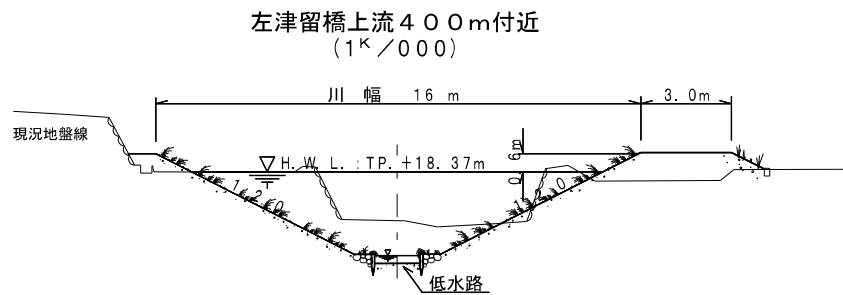


図 17 代表地点の断面形

## 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

適正な河川の維持管理や災害復旧の実施にあたっては、地域の特性を踏まえつつ、関係機関や地域住民と協力し、治水・利水・環境の視点から調和のとれた所期の機能を維持することを目的として、以下の施策を行います。

### 1. 河川管理施設の維持管理・災害復旧

洪水による災害の発生を防ぐためには、既存の堤防、護岸、樋管等の河川管理施設の機能を十分に発揮させることが必要です。このため、河川管理施設の現有機能の把握・評価を行ったうえで、機能の低下を防止するための点検、補修・復旧を行うとともに、所定の流下能力を確保するため、必要な箇所については、環境にも配慮しつつ、局所的に堆積した土砂の除去等を行います。

なお、河川管理施設の機能低下及び質的低下の原因としては、洪水等の外力による損壊と経年的な劣化や老朽化によるものがありますが、前者については河川環境に配慮しつつ、速やかに復旧・補修等の対策を、後者については計画的に補修・改築等の対策を行います。

### 2. 河川空間及び流域の適正な利用調整・管理

都市部の河川空間は、貴重な水と緑のオープンスペースとなっていることから、今後、地域社会からの河川利用に関する多様なニーズに対しては、治水・利水・環境に配慮して適切な管理を行います。

また、許可工作物の設置や流域内の開発行為については、河川整備基本方針及び本計画との整合を図りつつ、治水・利水・環境の視点から関係機関との調整を行い、支障をきたすことのないよう対処します。

さらに、河川における不法投棄・不法占拠・不法係留等を減らすため、河川巡視を強化し必要に応じ市町村や警察と連携し、監督処分を含めて対処を図ります。

### 3. 河川情報の高度化及び提供

洪水等の災害時には、正確で迅速な情報を地域住民に提供することで、被害を最小限に抑えることが極めて重要です。

このため、洪水危機管理体制確立の一環として、河川情報基盤の整備を推進し、洪水時は水位等の災害情報の収集を行い、水防警報を発令する等、関係機関とも連携して水防体性の維持・強化を図り、河川沿川の住民に対して防災情報を提供します。

#### **4. 防災意識の向上**

大規模な洪水被害を防止・軽減するためには、河川整備とあわせて地域住民一人一人の防災意識を高め、洪水時の迅速かつ的確な水防活動及び警戒・避難を行う必要があります。

このため、臼杵市等と協力して氾濫区域、避難場所等の防災情報を掲載したハザードマップの提供を積極的に行い、地域住民に対し危険箇所を平時から周知するとともに、防災教育や防災訓練の支援を行います。

また、防災関係機関や地域住民と連携して大規模な洪水氾濫を想定した危機管理計画の策定を推進します。

#### **5. 水質の監視等**

水質については、河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動を推進するとともに、下水道管理者と連携し生活雑排水対策等を行っていきます。また、水質事故等については、河川巡視等で早期発見と適切な対処に努めます。

### **第3節 其他河川の整備を総合的に行うために必要な事項**

#### **1. 地域ぐるみの河川管理**

近年、貴重な水と緑の空間として人々にうるおいを与える河川の役割が再評価され、地域と河川の関係を取り戻そうとする機運が高まりつつあります。

また、河川空間の維持には、地域ぐるみによる河川清掃やイベント等の自主的な活動が必要となるため、地域住民との連携化を図るとともに、河川愛護の定着に向けた活動（パンフレット、イベント等）を行います。

これにより、地域住民が河川に関わる機会を設け、NPO（民間非営利団体）や河川愛護団体との連携を図り、住民参加による河川管理を推進します。

#### **2. 河川情報の共有化**

地域住民に河川のことについて知ってもらうために、パンフレットの配布、イベントの開催、インターネット等により、河川事業の紹介等の河川に関する情報の提供に努め、河川整備に対する住民意見の集約をホームページ等で行い、地域住民とのコミュニケーションの充実並びに強化を図ります。

## 第5章 臼杵川の川づくりの進め方

臼杵川の河川整備をより円滑かつ効果的に推進していくためには、水系を一貫としてとらえ、県及び関係する市町はもとより、流域住民の理解と参加を得ることが必要不可欠です。

そこで、臼杵川に関する河川情報等を掲載したポスター、パンフレット、副読本等を作成するとともにインターネットや出前講座等により幅広く情報を提供し、臼杵川が地域共有の財産であるという認識のもとで河川整備・河川の利活用、並びに河川環境に関する地域の意見・要望を十分に把握します。

また、川の 365 日を考える時、環境面の機能維持は、周辺地区住民との連携が欠かせない状況となっており、計画・実施段階から住民を主体とした行政とのネットワークの構築を図ります。

今後の川づくりにあたっては、行政と住民、学識経験者等が一体となり下記の「臼杵ブロック流域懇談会」<sup>※</sup>等のなかでコミュニケーションを充実させることによって、技術面や予算面で可能なものから順に、人々が川に期待している想いを一つひとつ具体化します。

### ※臼杵ブロック流域懇談会

川づくりには、その川のもつ歴史、文化、社会背景、自然条件等の特性を踏まえて、川でつながれた流域全体を一つのまとまりとして、様々な立場の人々の川に対する想いを語りあい、考えていくことが大切です。そこで、流域内の住民団体等との交流及び連携をとるとともに、今後の川づくりのあり方について意見交換・討論する場として「臼杵ブロック流域懇談会」の設置を流域住民、学識経験者、各種団体、企業、関係自治体に提案していきます。

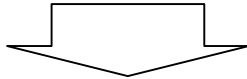
「臼杵ブロック流域懇談会」では、下記に示すような項目を、流域内で調査・研究し意見交換を行い、今後の河川整備計画の内容に反映させます。

表3 臼杵ブロック流域懇談会の調査・研究テーマ

項目	内容
○川をもっと知る	・ 流域の歴史・自然環境・風土・文化・災害の歴史・漁法等の調査・研究
○情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような川か</li> <li>・ 川の危険なところは</li> <li>・ 川の環境マップ</li> <li>・ 災害時の対応</li> </ul> } などの情報の共有化
○こどもの自然学習の指導	・ 水辺の楽校等の自然学習の場において、これをサポートする「川の達人」(ボランティア)の養成
○川にもっと親しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川の散策マップ作成</li> <li>・ 川遊びのマナーづくり</li> </ul>
○パートナーシップのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民の河川整備計画への参加</li> <li>・ 住民参加の河川管理の推進</li> </ul>

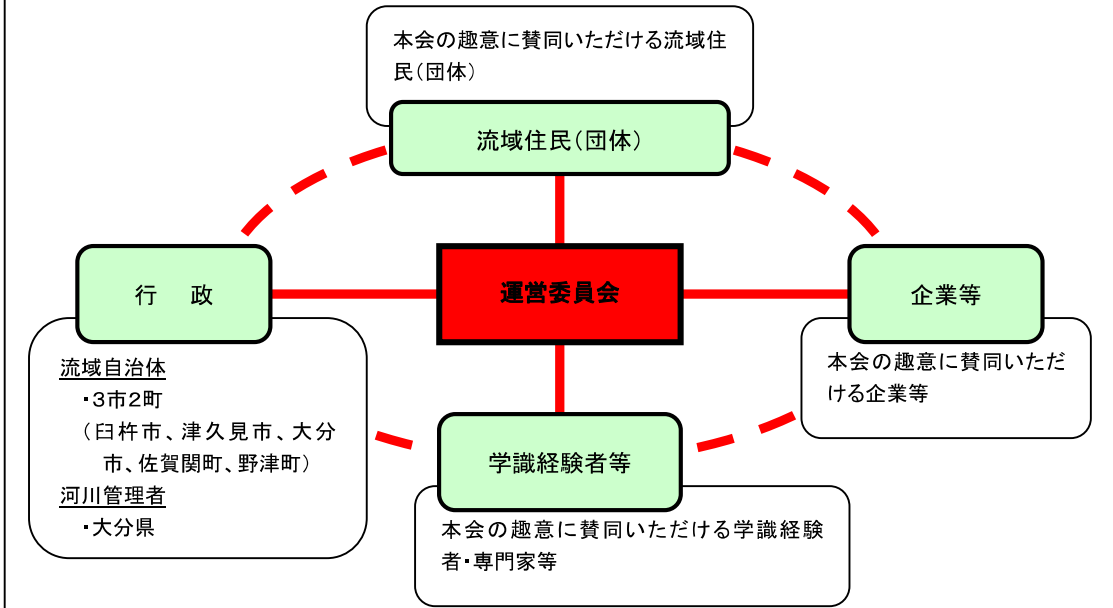


臼杵川河川整備計画



臼杵ブロック流域懇談会  
( 臼杵川水系及び  
臼杵土木事務所管内のその他2級河川 )

臼杵ブロック流域懇談会は、流域住民(団体)、学識経験者、企業、関係自治体、河川管理者などが、川づくりや流域環境について、継続的に情報や意見の交換を行い、お互いの協力関係を築き信頼関係を深めつつ、“いい川”や“いいまち”の実現に向けて、緩やかな合意形成を図ることを目的とします。



活動内容

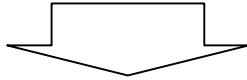
各主体が交流し、互いに情報を共有するための意見交換等のコミュニケーション活動を行います。  
また、“いい川”や“いいまち”の実現に向けて、川づくりなどに関する学習・啓発活動を行います。  
会員は、臼杵ブロック流域懇談会の活動に、自発的に参加することとなります。

- 具体的には、
- ① コミュニケーション活動として、シンポジウム、現地見学会の開催や、情報紙の発行等の情報発信を行います。
  - ② 学習、啓発活動として、勉強会、ワークショップ、セミナー等を開催します。



臼杵川流域委員会

学識経験者等



臼杵川河川整備計画見直し

臼杵川の川づくりの進め方